

京都大学の改革と将来構想





京都大学総長 山極 壽一

京都大学は創立以来、自由の学風のもと対話を根幹とした自主独立と創造の精神を涵養し、多元的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してきました。学問を志す人々を広く国内外から受け入れ、国際社会で活躍できる能力を養うとともに、多様な研究の発展と、その成果を世界共通の資産として社会に還元する責務は、ますます重要になりつつあります。

一方、地球環境の悪化や民族間、宗教間の対立の激化、国際資源競争や金融危機、社会格差や生活の不安などの20世紀的課題は、解決されないまま21世紀に持ち越され、一層問題が大き

くなっており、世界の情勢とわが国を取り巻く状況は急速に変化しています。わが国の人口動態の変化と基礎的財政収支の不均衡にともない、国立大学は、新たな運営形態や組織改革を求められるようになりました。特に、国からの運営費交付金は大学改革促進係数等によって毎年減少し、本学を取り巻く財政状況は一層厳しくなりつつあります。

そこで、第3期中期目標・中期計画を見据えた改革の加速期間であった平成26年度に、大学が直面している状況を正しく認識した上で、その改革に向けて指針を提示し、今後の実行計画を立てることにいたしました。

KYOTO UNIVERSITY

WINDOW 構想



世界や社会に通じた窓を 開け風通しをよくし、野生的で賢い学生を育てることが
私たち京都大学の共通の 夢であり、目標です。

まず私は、こうした現況に鑑み、京都大学が歩む指針として以下に述べる「WINDOW構想」を平成27年度に打ち出しました。大学を社会や世界に開く窓として位置づけ、有能な学生や若い研究者の能力を高め、それぞれの活躍の場へと送り出す役割を大学全体の共通のミッションとして位置づけたいと思ったからです。大学の教育とは、知識の蓄積と理解の向上だけを目指すものではなく、習得した知識や技術を用いていかに新しい発想や発見を生み出せるようになるかが問われるものです。その創造の精神を教職員と学生が一体となって高めるところにこそ、イノベーションが生まれるのです。すべての学生がみな同じ目標に向かって能力を高めたとしてもイノベーションには結び付きません。違う能力が出会い、そこで切磋琢磨する場所が与えられることによって、新しい考えが生み出されていくのです。京都大学では、単に競争的な環境を作るのではなく、分野を超えて異なる能力や発想に出会い、対話を楽しみ協力関係を形作る場を提供していきたいと考えています。そういった出会いや話し合いの場を通じて野生的で賢い学生を育て、背中をそっと押して彼らが活躍できる世界に、開いた窓から送り出すことが、私たち京都大学の教職員の共通の夢であり、目標であってほしいと思います。その「窓」にちなんで、WINDOWという標語を作りました。

そしてこの度、「WINDOW構想」の改定を行いました。同構想のこれまでの実績や社会環境の変化を踏まえて、京都大学が今後より一層注力する施策を検討し、新たに盛り込んでいます。また、平成29年度に指定国立大学法人*に指定され、新たに開始した多数の試みも取り入れました。

本構想では、新たな方針・施策だけでなく、継続して取り組むものについても、その理念や内容を十分に踏まえながら、さらに発展させようと考えております。今後も引き続き、皆様の積極的なご意見を頂戴したいと思っております。

W WILD
AND
WISE

未知の世界に挑戦できる
実践の場として、野生的で賢い
学生を育成します。

I INTERNATIONAL
AND
INNOVATIVE

研究の国際化を一層推進し、
イノベーションの創出を図ります。

N NATURAL
AND
NOBLE

自然に親しみ、学び、高い品格と
高潔な態度を身に付けられる、
学びの場を作ります。

WINDOW構想に掲げる6つの目標

D DIVERSE
AND
DYNAMIC

多様な文化や考え方を受け入れ、
悠久の歴史の中に自分を正しく
位置づける落ち着いた学問の場を
提供します。

O ORIGINAL
AND
OPTIMISTIC

失敗や批判を恐れず、それを糧に
して異なる考えを取り入れて
目標達成に導くような能力を
涵養します。

W WOMEN
AND
THE WORLD

男女共同参画推進アクション・プランや
学生のキャリアパス構築支援により
明るい希望をもてる環境を
整備します。

WILD AND WISE

未知の世界に挑戦できる実践の場として、
学生への多様な教育研究環境を提供し、
野生的で賢い学生を育成します。

WはWild and Wise。すなわち野生的で賢い学生を育てようという目標です。現代の学生は内にこもりがちで、IT機器を常時持ち歩き、狭い仲間うちだけで絶えずつながりあう傾向にあると言われていいます。そのため、ひとりよがりの判断でよしとしてしまう風潮が広がりつつあります。理にかなう優れた選択や行動を実施するためには、情報を正しく読み、自分ばかりでなく他者の知識や経験を総動員して自己決定する意思を強く持つことが必要です。大学キャンパスの中はもちろんのこと、それ以外にもこうした対話と実践の場を多く設け、タフで賢い学生を育てようと考えています。



「おもろチャレンジ」派遣の様子



グループワークやディスカッション等が可能なスペース「ラーニング・コモンズ」(附属図書館)



「ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム」受入れの様子

重点戦略1-1

学生主体で自発的な創意・創造性を活かせるような教育プログラムを充実させ、学生本位の視点に立った教育の質的転換を行うため、講義・コース内容の可視化による教育の質保証を担保するとともに、学部と大学院との柔軟な接続を図ります。

学部と大学院との柔軟な接続等

1. 深い教養と高度な専門能力を持つ人材を育成するために、学部・大学院の接続(学部から修士までの一貫した教育課程の導入、学部科目再履修制など)、大学院修士課程・博士後期課程の接続(5年一貫制博士課程など)、グローバル化に対応したアカデミック・パスの検討および飛び入学・早期卒業(修了)の定着を進めます。

教育の質的転換等

2. 学生の自律的な学修の促進、学生に対する学修指導等の充実および教育の国際化を図るため、科目コースツリー、科目ナンバリング*、GPA制度*の導入、ジョイント・ディグリー*/ダブル・ディグリー*制度の策定、国際化に対応した学事暦の実効化などを遂行するとともに、OCW*(Open Course Ware)、MOOCs*(Massive Open Online Courses)やSPOC*(Small Private Online Courses)等もさらに充実させます。

社会との接続を意識した教育内容の充実

3. 世界の情勢が変化中、社会が求める人材を育成するため、大学院生が教育を受けるにあたり基盤として不可欠な知識、研究遂行能力、論理的思考力、課題解決能力を伸長させる「大学院共通・横断教育科目*」の整備・拡充、国際高等教育院附属データ科学イノベーション教育研究センターにおけるデータ科学者の養成、国内外における教育研究インターンシップの充実等により、学生がより一層社会で活躍するための能力を伸長させます。

社会人の学び直しへの貢献

4. 社会において求められる人材の高度化・多様化を踏まえ、社会人のための編入学制度や長期履修制度を推進し、多様な大学院生の入学を促進します。また、履修証明プログラムを推進し、社会人の学び直しに貢献します。

重点戦略1-2

次世代を担うグローバル人材の育成と育成基盤の強化により、人々を導くことのできる、したたかで強靱なリーダーを育成します。

異文化を理解し国際的に活躍できるグローバル人材の育成

1. 京都大学ジャパングートウェイ構想*に基づく取り組み、博士課程教育リーディングプログラム*、「Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP)*」及び短期派遣・受入プログラム等の活用により、高い教養・俯瞰力・独創力を持ち、自国・他国文化の理解に基づき、国際的に活躍できるグローバル人材を育成します。国際高等教育院附属国際学術言語教育センター(i-ARRC)において、グローバル社会に対応した革新的な言語教育を実施するとともに、優秀で学ぶ意欲の高い留学生の獲得により学生間の知的な交流の場を創出し、自国理解力および異文化理解力を養います。

グローバルに通用する起業家の育成

2. グローバルに通用する創造性・アントレプレナーシップ*に富む野心的な人材を育成するため、基礎・基盤教育を実社会とつなぐことを意図した実践的なイノベーション教育プログラムを構築するとともに、イノベーションに資する産官学連携事業を基盤として、ベンチャーマインドを持った学生、教員等に対して実践的な起業教育(指導)を実施します。

重点戦略1-3

対話を根幹とした自学自習を促進するために、学生主体の多様な学びを支える教育学習環境を整備するとともに、人間形成の一翼を担う課外活動を支援します。

教育環境の充実

1. 学生個人が自らの学びを自身で振り返りながら主体的な学びを促進するため、BYOD (Bring Your Own Device)の実現やeポートフォリオシステム*の構築など、ICTの活用をはじめ学生主体の多様な学びを支える教育学習支援環境の整備を進めます。

課外活動環境の充実

2. 学生が自主的、自立的に行う課外活動を支援するため、施設を整備するなど、課外活動環境の充実を図ります。

INTERNATIONAL AND INNOVATIVE

対話を重視した教育研究環境を基盤とする

研究の国際化を一層推進し、イノベーションの創出を図ります。

「I」はInternational and Innovative。国際性豊かな環境の中で、常に世界の動きに目を配り、世界の人々と自由に対話しながら、時代を画するイノベーションを生み出そうとするものです。海外の大学や研究機関、産業界等を通じた多様な交流を通じて、これらの動きを作り出そうと考えています。



TEDxKyoto University 2017

重点戦略2-1

国際性豊かな環境を醸成します。

国際研究交流の推進

1. 国際競争力のある海外大学等との国際共同研究について、On-site Laboratory*を新たに設置するなど、研究グループ単位での研究者交流も視野に入れて戦略的かつ多角的に推進します。また、国際交流を推進するために、学術交流協定および学生交流協定締結を進めます。
2. 50を超える海外交流拠点等を整備・活用して、国際シンポジウムの開催や海外機関との共同研究による外部資金の獲得などを推進し、国際的な研究交流を加速させます。



高等研究院における研究風景(実験室での研究ミーティング)

重点戦略2-2

国際的な研究環境・研究支援体制を整備することにより、国内外の卓越した研究者が集う国際研究拠点を設置します。

研究支援体制の充実

1. 英語が堪能で事務を能くする「国際的な事務職員」を養成します。URA*(University Research Administrator)による支援体制の充実やICT環境の整備などを進め、多様性に富む人材が研究教育に専念し、能力が発揮しやすい環境整備を図ります。

次代を担う研究者の育成・輩出

2. 研究と教育の連動を通じて次世代を担うグローバル人材の育成基盤を強化していくため、テニュアトラック*等を含む採用システムを整備するほか、卓越大学院プログラム(仮称)*及び「ジョン万プログラム*」や「リサーチ・ディベロップメントプログラム【いしずえ】*」の活用のほか、「GST(Graduate Student Training)センター(仮称)」の設置等により、優秀な若手研究者の育成を図ります。

先導的拠点(WPI*拠点)の活用

3. 世界トップレベルの国際研究拠点として新たに設置した高等研究院において、本学の強みを活かした最先端研究の新たな展開や、国内外の機関との研究者交流などによる研究人材の育成をより一層推進します。

重点戦略2-3

創造的な研究を推進し、世界への発信を図ります。

最先端研究によるフロンティア領域の開拓と牽引

1. 基礎研究・応用研究・開発研究を包摂する知の営みにより学術研究の創出と発展に寄与していくため、京都大学の強みを活かした最先端かつ独創的な研究活動を推進し、世界の学術におけるフロンティア領域を開拓し牽引します。

人文・社会科学の未来形発信

2. 我が国の人文・社会科学の再構築に向け、一層の国際化を推進します。特に京都の文化や日本の思想に強い関心を持つ世界中の学生や研究者との交流を促進するとともに、その支援を充実させます。また、本学の歴史を踏まえつつ、強みを活かした研究活動を通じて、自然科学諸分野との連携などによる人文学の新しい潮流の形成と世界への発信を目指します。これらの取組を通じて、現代世界の多様な社会課題の解決に寄与します。

学術資源の活用

3. 京都大学が集積し、自然・人文・社会の諸科学の研究を支えてきた多様な学術資源の国際的な活用を推進し、新たな知の開拓と成果発信を行うとともに、世界的な価値ある財産としてその継承とさらなる充実につとめます。

情報発信の強化

4. 「京大らしさ」を研究活動面でより鮮明にアピールするため、国際的な視野のもと多言語でのWeb等の充実を図り、世界の学問の拠点にふさわしい情報発信を目指します。



ハンブルク大学-京都大学共催シンポジウム2017
オープニングセレモニーの様子



第3回 ASEAN-JAPANワークショップ(STSフォーラム主催)
セッションにて山極総長が議長を務める様子

重点戦略2-4

産官学連携および社会貢献等事業の推進ならびに質の高い医療の提供等を通じて、社会的課題の克服と人々の健康の向上を図ります。

ベンチャー育成事業の推進

1. 本学の世界最高水準の独創的な研究開発を支援し、その成果を国内外の資源を活用しながら新産業の創出までつなげていくため、「基礎研究」の推進徹底により「普遍的な技術開発」を展開し、国際科学イノベーション棟を活用した産官学連携を推進します。特に、イノベーションの源泉となる大学発ベンチャー育成事業を重点的に推進します。

産官学連携・京大モデルの構築

2. 研修・講習事業やコンサルティング事業、事業化支援事業等について、本学100%出資の子会社(「京大オリジナル株式会社」)を新たに設立し、事業を開拓・展開するとともに、技術移転やベンチャー支援など既存の子会社と連携して産官学連携の新たなモデルを構築します。

また、本学における研究・教育活動の一層の発展と国際的な人材育成を目指し、オープンイノベーション等を視野に入れ、産業界からの積極的な参加による「組織」対「組織」の共同研究など包括的産学連携を強化します。

さらに、本学の多様な研究成果を社会に還元するため、産業界の将来像を踏まえた知財ポートフォリオマネジメント*を構築し、戦略的かつ基礎科学に根差した技術移転の推進を図ります。

社会貢献等事業の推進

3. 本学のプレゼンスを向上させ、新たな支援者の獲得や持続性のある本学への支援風土を醸成させるとともに、現代社会の様々な問題解決に資するため、最先端の教育・研究成果等を市民講座や施設公開により広く発信し、社会に向けて開かれた討論を実施していきます。また、社会的課題がグローバル課題に直結していることに鑑み、人類的課題克服に向けた解決策の提示をはじめとする活動にも博士課程教育リーディングプログラム*の履修生等を参加させ、実践的な貢献を図ります。

京都アカデミズムの社会還元

4. 新たに東京・丸の内内に設置した「京都アカデミアフォーラム」において、京都に所在する芸術・美術系を中心とした大学との連携により、京都の文化・芸術・科学を学術面から情報発信するとともに、技術移転やベンチャー投資活動の拠点として教員・研究員と企業・経済団体との交流等を推進します。

先進的医療の開発と質の高い医療の提供

5. 医学部附属病院を中心として、再生医療などの新しい医療技術と高品質な生体試料の保管・分析技術や、最新情報技術によって集約されたゲノム情報と医療情報を活用して、より安全で質の高い医療システムを確立するとともに、革新的な医薬品・医療機器・ソフトウェア医療機器を開発し、我が国における医療イノベーションに貢献します。また、地域中核病院や自治体との連携の強化および海外特にアジア地域の病院との医療人材交流の一層の拡大を通じて、地域のみならずアジア諸国における国際標準の医療の提供を図ります。

NATURAL AND NOBLE

自然に親しみ、広く深く学び、高い品格と高潔な態度を
身に付けられるよう、全学の意識を高め、魅力ある
カリキュラムや快適な学びの環境および制度を作ります。

NはNatural and Noble。京都大学は、三方山に
囲まれた千年の都に位置し、自然の景観に恵まれ、
高い水準の文化と歴史に包まれた環境にあります。
昔から京都大学の研究者は、これらの豊かな環境の
下で自然と触れ合い、多くの新しい発想を育んできま
した。これまでに9人のノーベル賞、2人のフィールズ賞
をはじめとする多くの世界的な賞の受賞者を輩出し、
西田哲学、霊長類学など世界に類のない新しい発想
や学問を生み出してきたのも、京都のこうした環境に
よるところが大きいと言えます。また、京都の市民
も京都大学の学生に古くから親しみ、時には教育的な
配慮をもって接してきました。京都大学の学生の高い
品格や倫理観は京都の自然と社会的環境によって
醸成されてきたように思います。今後もこの伝統を
受け継ぎながら、新しい時代に適合しつつそれを先導
するような精神を培っていきたいと考えています。



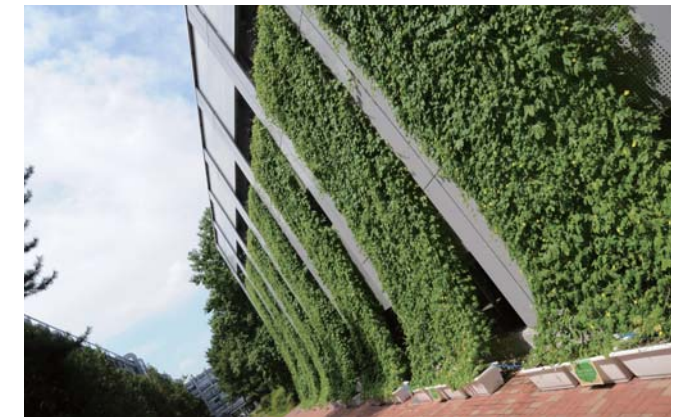
芦生研究林「教育・研究利用現地ツアー」



サマープログラム「China-Japan-Korea SERVE Initiative 2017」



エコ〜るど京大初夏の陣



省エネを目指したグリーンカーテン

重点戦略3-1

教育研究環境の整備・充実を図ります。

快適なキャンパス環境の提供等

1. 学生が快適なキャンパスライフを送ることができる環境を整備します。併せて、サステイナブルキャンパス*の構築を目指して、京都大学キャンパスマスタープラン*(2013)を逐次更新し、「インフラ長寿命化計画」に基づく施設の長期活用に向けた適切な維持管理などの取組や環境賦課金制度を活用した環境負荷低減の継続・促進などを図るとともに、地球社会の調和ある共存に寄与する学生・教職員の意識の向上に努めます。

学生・教職員の健康増進

2. 「大学から人々と社会の身体的・精神的な健康を創造する」を目標に、「京都大学ヘルシーキャンパス」の取組を推進します。大学に関わる人々の健康が増進するだけでなく、市民との連携のもと「健康を大事にする文化」を社会に広げ、根付かせることを目指します。

重点戦略3-2

自然に学び、異文化と交流できる機会を増やします。

フィールドワークやカリキュラムの充実

1. 創立以来培ってきた精神(自学自習、自重自敬、自得自発など)を踏まえ、現場体験も重視しながら、学生が自然に学び、京都の文化的・歴史的遺産や異文化と触れ合えるカリキュラムを増やし、行政、企業、民間団体と協力して交流事業の充実を図ります。

重点戦略3-3

コンプライアンスの強化を図ります。

コンプライアンスの強化

1. 学生と教職員の高い倫理性の堅持と社会的信頼の維持・向上を図るため、総括的なコンプライアンス体制の下、コンプライアンス教育・啓発を一層充実させるとともに、リスク・マネジメントの発想に基づく、予防的措置に重点を置く環境整備および制度構築を図ります。



「京都大学ヘルシーキャンパス」キックオフフォーラム
「学生が考える健康づくり対談」の様子



「京都大学ヘルシーキャンパス」キックオフフォーラム集合写真

DIVERSE AND DYNAMIC

多様な文化や考え方を常に受け入れ、自由に学べる精神的風土を
培いながら、悠久の歴史の中に自分を正しく位置づけて堂々と
振る舞う心構えを涵養するとともに、その躍動を保証しつつ静かで
落ち着いた学問の場を提供します。

DはDiverse and Dynamic。グローバル化時代の到来により、現代は多様な文化が入り混じって共存することが必要になりました。これまで強みを発揮してきた日本の均質性は、国際競争が激化する現代では時として創造力を弱め、イノベーションの育成を阻んでいると言われます。京都大学は多様な文化や考え方に対して常にオープンで、自由に学べる場でなければならぬと思います。一方、急速な時代の流れに左右されることなく、自分の存在をきちんと見つめ、悠久の歴史の中に自分を正しく位置づけて堂々と振る舞うことも重要です。京都大学はその躍動を保証する静謐な学問の場を提供したいと思っています。



市民を対象とした「飛騨天文台 自然再発見ツアー」



「ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム」受入れの様子

重点戦略4-1

「京大らしさ」の継承と発展を図るために、京都を丸ごと大学のキャンパスとみなして地域・社会と共生していく「京都・大学キャンパス計画」を推進するとともに、同計画に基づき、行政・経済界・他大学等との連携強化による国際化を推進します。

単位互換制度の実施

1. すでに構想・実施されている「京都ビジョン2040」（京都の未来を考える懇話会）や「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」（京都市）と歩調を合わせつつ、「京都学」関連講義の大学間単位互換制度を推進します。

京都府・京都市等との連携

2. 京都府や京都市等、また京都府下やその周辺の国公立の施設（植物園や動物園、博物館や美術館など）との連携を図り、京都のアカデミズム*を創造し、世界へ発信します。

休止施設の再利用

3. 上記連携から、観光都市京都の文化的・歴史的遺産を十分に活用するとともに、休止中の施設の再利用を通じて、外国人研究者や留学生の利用できる施設を拡充します。

研究者交流の推進

4. 年俸制、クロスアポイントメント制度*、テニュアトラック*システムを適宜導入ないし有効に活用しつつ、教員の利益を損ねることなく流動性を高めるとともに安定した教育研究環境を提供します。

地域・社会との交流

5. 様々な言語での対話やパフォーマンスを実施する機会を増やし、外国人と市民との交流を深め、その中で学生の対話やディベートの能力向上を図り、学際性、国際性、独創性を高めます。
6. 公開講座・講演会、シンポジウム、施設公開、展示会などを実施して、学生、研究者と市民、企業との交流を図ります。



公開講座「春秋講義」

重点戦略4-2

グローバルで多様な学生を積極的に受け入れる基盤として、日本人学生と留学生との対話ができるスペースや交流の場を充実させます。

学生交流・福利厚生施設の整備

1. 日本人学生と留学生との交流の場を充実させるため、日本人学生と留学生の混住が可能な施設や福利厚生施設を整備・拡充していきます。

重点戦略4-3

将来構想等の着実な実現に向けて機動的な大学運営を行うとともに、次世代の教育学習環境の改善、組織化等による研究力向上を図るために、情報環境を整備し、それを基盤として多様な活動を俯瞰できる本学独自の仕組みを構築します。

将来構想等のダイナミックかつ着実な実現

1. 大学の将来構想や組織改革等の包括的又は組織横断的課題について、トップダウンとボトムアップを調和させ、戦略の立案とその推進を図るため新たに整備した「京大版プロボスト」制により機動的な大学運営を行い、将来構想等のダイナミックかつ着実な実現に繋がります。

IRを活用した大学運営

2. 大学の活動から生じる多様なデータをIR* (Institutional Research) の手法を用いて活用を図り、エビデンスに基づく教育研究現場の創意工夫を活かす企画・運営を行い、京都大学の持続的発展を支え、独創的な学際学術領域を創成するための組織改革などを推進します。

総合的な学生支援

3. 様々な背景をもつ学生が、不安なく本学で教育研究に専念できるよう、カウンセリング、キャリアサポートや障害学生支援において、学生のニーズに対応した総合的な学生支援の充実を図ります。また、教育面での学生支援等については、EM* (Enrollment Management) の活用や、留学生が利用しやすい英語による情報提供などにより、支援効果を高めます。

ORIGINAL AND OPTIMISTIC

失敗や批判を恐れず、それを糧にして異なる考えを取り入れて目標達成に導くような能力を涵養できる環境および制度を整え、分野を超えた多様な人材の協働による新たな学術領域の創成など、未踏科学領域の開拓を目指し、それを支援します。

○ はOriginal and Optimistic。これまでの常識を塗り替えるような発想は、実は多くの人の考えや体験を吸収した上に生まれます。そのためにはまず、自分が素晴らしいと感動した人の行為や言葉をよく理解し、仲間とそれを共有し話し合いながら、思考を深めていく過程が必要です。自分の考えに行き詰まったり、仲間から批判されて悲観しそうになったりしたとき、それを明るく乗り越えられるような精神力が必要です。失敗や批判に対してよくよせず、それを糧にして自分とは異なる考えを取り入れて成功に導くような能力を涵養しなければなりません。その機会を京都大学になるべくたくさん作るように環境を整えようと思っています。



特色入試ポスター



高校生を対象としたELCAS(エルキャス)指導風景



「学びコーディネーター事業」における出前授業の様子

重点戦略5-1

総合研究大学としてのポテンシャルを質の高い教育に反映させ、あらゆる学生や教員が安心して学習や教育研究に専念できる環境を作ります。

教育と研究の協奏

1. 教育を研究に埋没させたり、両者が背反的な関係になったりすることのないよう、教育と研究の協奏関係を具現化します。そのために、研究に加えて、教育や教育システム運営への教員の貢献を適切に評価する仕組みを構築します。

重点戦略5-2

総合大学に相応しいアドミッションのあり方を再考し、高校生の主体的な進路選択の支援および高校教育から大学教育へのスムーズな接続を図るため、高大接続および連携に関する事業を推進します。

高大接続

1. アドミッション・ポリシー*に見合った優秀な志願者を獲得するため、高大接続と基礎学力を重視する特色入試を含む、入試制度の改革を継続的に進めます。

高大連携

2. 高等学校教育から大学教育へのスムーズな接続を図るため、各地域の教育委員会との連携協定を基に、高大連携事業、京都大学サマースクール、京都大学サイエンスフェスティバル(各都道府県から選出されたチームによる研究発表大会)を展開します。また、ELCAS(エルキャス)*や「学びコーディネーター事業*」等により、学びに関する強い意欲と知的好奇心を持った高校生に対して、優れた教育研究資源を積極的に活用した教育プログラムを提供し、知的に卓越した能力を育成します。さらに、高大接続に資する高等学校とのネットワーク形成を推進します。



学生チャレンジコンテスト(SPEC)採択発表会
採択プロジェクトについてプレゼンする学生たち

重点戦略5-3

京都大学を特徴づける創造的学術領域における研究を推進します。

学際研究の推進による未踏科学領域の開拓

1. 新たに導入した学域・学系制という教員組織制度による既存の部局(教育研究組織)の枠を超えた学際的な研究の推進や機動的・効果的な組織改編等を通じて、異分野融合による新分野創成等、新たな未踏科学領域を開拓する取り組みを行います。

重点戦略5-4

外的な制約にとらわれない自由な発想を担保するために「基金戦略」を推進し、社会や大学支援者と大学とのつながりを強化します。

自主財源確保とそれに基づく支援の充実

1. 自主財源の確保に努め、それを基に、本学独自の奨学金や「京大生チャレンジコンテスト(SPEC)*」、京都大学体験型海外渡航支援制度-鼎会プログラム「おもろチャレンジ」*等の学生支援を充実させるほか、新たな研究分野や萌芽的研究領域(未踏科学領域)に挑戦する若手研究者等への支援を強化します。

国内外からの大学支援者との連携

2. 大学支援者層の拡大を図るために、海外を含めた同窓会・卒業生との連携を強化するとともに、楽友会館、東京オフィス及び京都アカデミアフォーラムをはじめとした同窓生や海外の研究者等が集うことができる施設の整備を図ります。



欧州洛友会(欧州同窓会)

WOMEN AND THE WORLD

男女共同参画推進アクション・プランに基づき

環境・支援体制整備に加え、休業から復帰後の子育て期に柔軟な働き方を選べる制度を構築します。また、学生が希望をもってキャリアパスを描くことができる環境を整えます。

WはWomen and the World。これまで政府は男女共同参画社会の実現を目指し、数々の対策を奨励してきました。京都大学も学生に占める女性の比率は2割を超え、事務職員・技術職員では6割近くになりましたが、教員はまだ1割近くに留まっています。この比率は徐々に上昇すると思いますが、まずは女性が働きやすく、勉学に打ち込める環境作りが必要です。出産・育児休暇が男女とも取りやすく、それが仕事や勉学を継続する妨げにならないような仕組みや、女性に優しい施設・システムづくりを考えていきます。男女共同参画を支える環境・支援体制整備に加え、休業から復帰後の子育て期に柔軟な働き方を選べる制度を構築するため、男女共同参画推進アクション・プランを作成し、その事業推進に努めます。また、京都大学という「窓」を通じて、学生が希望をもって社会に羽ばたくことができるよう、学生が自身の能力に自信を持てるような成長の機会を創出します。



男女共同参画推進センター 保育園入園待機乳児保育室



女子高生・車座フォーラム



京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)



京都大学未来フォーラム

重点戦略6-1

女性リーダー育成および家庭生活との両立支援を推進します。

女性リーダーの育成

1. 女性リーダーを育成するため、ジェンダー・バランスに配慮した教職員採用人事を推進するとともに、女性の活躍を顕在化させ、メンター制度を充実させるなどキャリアアップのための研修・啓発を推進します。

家庭生活との両立支援

2. 家庭生活との両立を支援するため、待機乳児保育・病児保育・お迎え保育等の充実や研究実験補助者雇用支援の拡充を図り、男女の別のない育児・介護休業制度の周知を徹底し働きやすい職場および研究環境を整備します。これにより、職域における男女の差をなくすように努めます。

重点戦略6-2

男女がともに高い希望をもちうる環境づくりを推進します。

次世代の育成支援

1. 次世代にとって魅力ある京都大学を構築するため、オープンキャンパス、女子高校生向けのフォーラム等をはじめとした高大連携や地域連携事業、関連のホームページの充実や冊子の発行などを通じた京大像やロールモデル*に関する情報提供の推進、女子学生を対象にした大学院生・若手研究者との懇談会の実施などに加え、次世代女性研究者育成に向けたキャリアパス構築を目指します。

教職員・学生への広報・啓発活動の推進等

2. 男女の安定的な共同参画を実行するため、将来のキャリアパスについて希望を募り、海外の事例を参照しつつ、男女が快適に共同で仕事を進めるために必要な意識改革や環境整備を実施していきます。

重点戦略6-3

学生が希望をもって社会に羽ばたくための支援を行います。

大学院生の教育研究能力向上

1. 総合的な教育能力と人間的素養を高めるとともに、研究者も視野に入れた大学院生のキャリアアップにも資するよう、「GST (Graduate Student Training) センター(仮称)」を新設し、各種トレーニングを行います。

社会との連携による学生のキャリアパス構築支援

2. 社会で活躍する本学OB・OGの経験を「京都大学未来フォーラム*」等の場で学生に提供する等、学生が幅広い可能性を視野に入れつつ具体的なキャリアパスを構築できるよう、支援を行います。



次世代認定マーク(愛称:くるみん)
「子育てサポート企業」として厚生労働大臣から認定
(2009年認定、2014年更新)

用語集

アカデミズム	学問研究や芸術活動について伝統的秩序や権威を尊重し、研究や創作活動の純粋性、正統性を保持しようとする精神的傾向・行動様式
アドミッション・ポリシー	入学受入方針。入学志願者や社会に対し、大学・学部などが教育理念や特色などを踏まえ、教育活動の特徴や求める学生像、入学者の選抜基準などの方針をまとめたもの
アントレプレナーシップ	起業家精神。新しい事業の創造意欲に燃え、高いリスクに果敢に挑む姿勢
科目ナンバリング	授業科目に系統的な番号を適切に付し分類することにより、学修の段階や順序等を明確化し、教育課程の体系性を明示する仕組み
キャンパスマスタープラン	中長期的視野に立ったキャンパス環境全体の基本的な計画
京都大学ジャバングートウェイ構想	本学の強みを生かした数多くの世界トップレベルの研究者ネットワークを活用して、海外の大学と連携して互いに質の高いカリキュラムを提供し、国際認知された学位プログラムを推進することで、共に教育力や研究力、国際競争力を更に強化していく構想(文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業)
京大生チャレンジコンテスト(SPEC)	自由な発想に基づき未知の世界に挑戦する学生を支援する制度として平成27年度より開始。採択された学生プロジェクトを支援するため、京都大学基金においてクラウドファンディングの方式による寄附募集活動を行い、集まった寄附金を助成金として学生に支給するもの
京都大学体験型海外渡航支援制度	
-鼎会プログラム「おもろチャレンジ」	学生の自己提案形式による海外研修プログラムとして平成28年度より開始。学生に渡航先の選定を含めた渡航の企画を志望動機書として提出を求め、採択者に対して奨学金を支給するもの。なお、本プログラムは財界トップの本学卒業生で構成する総長支援団体「鼎会(かなえかい)」の財政的支援に基づいている
京都大学未来フォーラム	本学と社会との協力・連携を一層深めるため、企業や官庁、国際機関、NGO、大学・研究機関、マスメディア、文化・芸術など様々な分野で活躍する卒業生を迎えて、講演と意見交換を行うイベント
クロスアポイントメント制度	研究者等が、大学や公的研究機関、民間企業等との間でそれぞれ雇用契約関係を結び、一人が異なる複数の業務を各機関の責任の下で行うことを可能にする仕組み
サステナブルキャンパス	持続可能な社会の実現のためのモデルともなりうる環境配慮型大学
指定国立大学法人	「研究力」「社会との連携」「国際協働」において、国内最高水準に位置している国立大学法人のうち、国際的な競争環境の中で世界の有力大学と伍して、社会や経済の発展に貢献する取組を実行し、国立大学改革の推進役となる大学に対し文部科学大臣が指定するもの。本学は平成29年6月末に指定を受けた
ジョイント・ディグリー	複数の大学が、共同で教育課程を編成・実施し、構成大学連名による一つの学位を授与することができる仕組み。複数大学の連携による多様で特色ある教育研究の提供を可能にする。わが国では、平成21年3月1日施行の大学設置基準等の改正により創設(関連法令:大学設置基準第43条等)
ジョン万プログラム	本学の次世代を担う若手人材を対象に、海外経験等の機会を支援し、国際的な活動を奨励・促進することを目的として、大学が主体となって次世代のグローバル人材を積極的に養成する全学的プログラム。研究者、学生、職員を対象にした3つの派遣事業で構成されており、各派遣事業を通じて、世界に通用する国際力豊かな若手人材を育成し、本学が世界に卓越した知の創造を行う大学として発展していくことを目指している
大学院共通・横断教育科目	大学院レベルの全学共通的な教育の充実を目的として、平成30年度より実施する科目の総称。大学院共通科目群(社会適合分野、情報テクノサイエンス分野、コミュニケーション分野の3分野により構成)及び大学院横断教育科目群(他研究科大学院生の受講を可とする研究科開講科目や、研究科・研究所等による双方向型の科目により構成)から成る
卓越大学院プログラム(仮称)	新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェSSIONAL」)を育成するプログラム
ダブル・ディグリー	複数の国内外の大学が、単位互換制度などを含む相互協定に基づき予め準備した一連の学習プログラムを一定の期間内に学生が履修した場合、両大学が同時にそれぞれの学位を授与するもの
知財ポートフォリオマネジメント	複数の知的財産を最適に管理し、的確な経営戦略に反映すること
テニュアトラック	組織の活動の活性化を図るための措置として、若手研究者に自立した研究者としての経験を一定期間積みませ、その間の業績等について厳格な審査を行い、教員・研究者としての資質・能力が高いと認められた場合に、任期を付さない職に就かせる仕組み

博士課程教育リーディングプログラム	優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業
学びコーディネーター事業	本学の大学院生等が自らの研究内容を高校生にとってわかりやすく、かつ高校生が興味を持てるような教材にまとめ、実際に授業を担当する高大連携事業。本学の大学院生等を高等学校に派遣する「出前授業」または本学を訪れる高校生に対する「オープン授業」という形式により、高校生の学習内容に対する関心と理解を高め、主体的な学びと志を涵養することを目指している

リサーチ・ディベロップメント	
プログラム【いしずえ】	若手～中堅層の研究者を中心に、研究のさらなる進展を目指す取組を支援する本学の独自事業
ロールモデル	行動の模範となる存在、手本
eポートフォリオシステム	ICTを活用して教育記録の蓄積や管理を行うことができるシステム
ELCAS(エルカヤス)	本学の教育理念である「対話を根幹とした自学自習」に基づき、優れた教育研究資源を積極的に活用し、研鑽を通じて主体的に科学を究めようとする高校生の育成を目的とした高大連携事業。高校1・2年生(100名程度)が月1～2回本学に通い、講義を受け、実験・実習に参加する。専門分野の教員・大学院生・学部生が直接指導にあたり、本学の施設や設備を用いた探究活動を行っている
EM	Enrollment Management。入学前から、在学中、卒業後までを一貫してサポートする、総合的な学生支援策
GPA制度	Grade Point Average 制度。学生の成績評価については、各設置基準において、客観性および厳格性を確保するため、学生に対して成績評価の基準を予め明示するとともに、当該基準に則して適切に評価を実施することが定められている。GPA制度は、客観的な成績評価を行う方法で、一般に授業科目ごとに5段階(例えばA、B、C、DおよびF)で成績評価を行い、それぞれ4から0のグレード・ポイントを付し、この単位当たりの平均を算出し、その一定水準を卒業などの要件とする制度
IR	Institutional Research。高等教育機関内の調査研究を実施する機能または部門。機関情報を一元的に収集、分析することにより、機関が計画立案、政策形成、意思決定を円滑に行うことを可能とするもの。また、必要に応じて内外に対し機関情報の提供を行うもの

Kyoto University International Undergraduate Program	
(Kyoto iUP)	18歳人口が減少するなかでも本学の水準を維持し、次代の研究教育を担い、日本、世界を牽引する研究者を養成するという最重要課題に応えること及び多様な人材を活用しようとする機運を持つ日本企業やグローバル人材を求める日本企業へ高度な外国人材を輩出し、日本社会への定着を促進することを通じて、日本社会・企業の国際化に貢献することを目的として、優秀で志高い留学生の学部段階での受け入れを拡充するために創設したプログラム
MOOCs	Massive Open Online Courses。インターネット上で誰もが無料で受講できる大規模な開かれた講義
OCW	Open Course Ware。大学等で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動
On-site Laboratory	研究グループ単位での研究者交流を行うため、海外の大学や研究機関等との間で相互設置する現地運営型研究室
SPOC	Small Private Online Courses。MOOCsと同様のオンライン環境を使用し、各大学が学内の学生向けに提供するオンライン講義やその学習環境
URA	University Research Administrator。大学等における研究マネジメント人材。教員・研究者と連携して研究活動の企画、研究資源の獲得や研究成果の活用等に努め、研究者の研究活動の促進や研究体制の強化等を支える業務に、研究者と事務職員の間接的な立場で従事する人材
WPI	World Premier International Research Center Initiative。平成19年度に文部科学省が開始した事業「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)」。高いレベルの研究者を中核とした世界トップレベルの研究拠点の形成を目指す構想に対し、政府が集中的な支援を行って、システム改革の導入等の自主的な取り組みを促し、世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と高い研究水準を誇る「目に見える拠点」の形成を目指すもの